

こころ館は、子ども達が自分の人生を力強く生きぬくことができる社会を目指します。

「こころ館が目指す社会」

こころ館では、子ども達ひとりひとりが社会の一員としての意識をもち、生き生きと自己実現を目指し、豊かな人生を歩めるような心の持ち方について考える機会を教育現場に届ける活動をおこなっています。

豊かな社会の実現には、まず子ども達ひとりひとりが生き生きと育つことが大切です。子ども達が社会に対して無関心にならず、自分も社会の一員であるという意識をもち、自分に出来る事を自らが考え、他者にも貢献できる人になるために、知識と共に「心を育む」事が不可欠だと私たちは考えます。

子ども達は私たちの未来。

こころ館の授業をきっかけにして、自分の力で人生をきり開き実り豊かに生きようとする子ども達が社会にあふれる事、これが私たちの目指す社会です。

こころ館の役割

昨今、親が地域から孤立している家庭が増え、しつけをも学校任せにしているケースが多く見られます。また学校でも、知識優先の教え込む教育になりがちで、心の教育にまで手が行き届いていないのが現状です。

また、貧困問題を抱えるアジアの国々の子ども達に於いても、親自身が十分な教育を受けられていない事や、生活の為に仕事に追われ、子ども達が生きていく上で必要な知識を教える事が疎かになっています。今日現地の学校では、心を育む情操教育の為に授業は後まわしにされ、音楽・体育・美術などの時間を取っていないことも少なくありません。このような事から自国のみならず、子ども達には、「生き方」を考える為の心の啓発活動を出前授業として、親・先生・企業人など大人に向けての啓発活動では「自分の人生」について心と真剣に向き合う事で、自己実現をはたし自分らしく生きる道へとつながるという事を伝えています。

こころ館では、このような活動を通して、心の教育の重要性を広く皆さまに周知して頂くことを願っています。



自分を見つめる時間」を届けているのは、今の自分について逃げずに向き合ってもらいたいからです。



こころ館では、子ども達ひとりひとりが社会の一員として、生き生きと自己実現を目指し、豊かな人生を歩んでほしいという願いから、出前授業を教育現場に届けています。

子ども達の人間力を育むために『心の育成実践学習教材絵本』を自主制作し、授業の中では自分の心と向き合う時間を届けることで心を育む教育を行っております。これらの活動を通して、心の教育の重要性を広く皆さまに周知して頂くことを目指し活動しています。

○青少年心の教育推進事業



①日本の青少年心の育成事業

現在、中学生向けの「自分の心と向き合う」出前授業を展開。自主制作した『心の育成実践学習教材絵本』の物語を通して心を豊かに育てるための実践ワークを行っています。今の自分の在り方が未来を創りだしていることを物語を通して伝え、主人公の揺れ動く心の様を疑似体験する事により、自然に自分の心を感じ向き合う事が出来ます。授業の中では、今の自分の問題点を発見し挑戦することの大切を伝えています。将来的には小学校・高校・大学にも普及していく予定です。



②カンボジア青少年心の育成支援事業

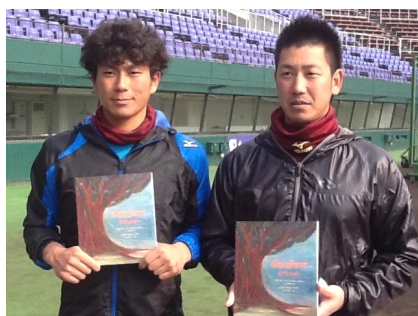
当団体代表の「途上国の子ども達にも自分の可能性を信じてほしい」という思いから始まり、カンボジアの孤児院を中心に絵本の配布活動を 2007 年から行ってきました。活動当初は、貧困のため学校に通えない孤児院の子ども達を対象に活動を行っていました。急激に経済成長を遂げつつある現在のカンボジアでは、日本と同様の授業を現地の教育現場で展開する運びとなり準備をしています。現地では、日本の大学生とカンボジアのスタッフによる授業の実施を検討しています。



③被災地の心の育成支援・メンタルサポート事業

私どもの団体では、子ども達に心の持ち方で人生を豊かなものにすることができることを子ども達に伝えています。被災地には、想像もできないほどの辛い出来事に直面し大変な想いをして生きてる子ども達が多くなります。そんな、過酷な環境にある子ども達に同情ではなく勇気づけの授業を当団体では行っていきます。

また、京都教育大学附属京都小中学校に所属(代表松原)し、他の学校も含め、子ども達、保護者、教員、一般の方のカウンセリングを行ってきた代表の経験を活かし、メンタルサポートも被災地では同時に行っていけたらと考えています。



※被災地の授業は楽天イーグルスの選手の皆さんのチャリティイベントの寄付により届けられます。

写真:楽天イーグルス(左・岡島選手 右・藤田選手)

これまでの実績・成果

当団体は、2013年6月に設立しましたが、代表による個人での活動は2005年よりスタートしています。

国内では、現在までに青少年心の育成推進事業・講演事業を100校近くの学校で実施。その成果もあり、団体設立記念シンポジウムでは、200名の応援者が来場し子ども達の心の教育の大切さについて考える機会となりました。また、2007年から訪問しているカンボジア王国からは、団体の役員を務めるシソワットカンタレス妃殿下も来日。基調講演の中では、子ども達の教育が国の未来を創っている事を辛い戦争の体験を通しお話しされました。2008年、クメール語・英語・日本語が記載された絵本「2ひきのへび」を出版。日本では学校の授業で使用し、カンボジアでは孤児の子ども達に配布する活動を実施してきました。2012年には、日本の中学校の子ども達の授業で使用している「母なる木」という教材絵本をカンボジアで一万冊を出版。今後は、この本を中心に、日本とカンボジアで心の教育推進事業を実施していきます。



写真(真ん中)シソワットカンタレス妃殿下(右)こころ館代表松原

活動手法の独自性

当団体では、心と向き合うための「心の育成実践学習教材絵本」を製作。子ども達が心と向きあいやすくなるよう絵本を映像化。心がリラックスする音楽・心を感じるために描かれた絵・心と向きあうために書かれた物語をひとつにすることで五感で心を感じることができます。授業では、物語の主人公の心を感じ自分の心と向き合きあう投影法を使用しています。物語は1話完結でありながらもステップが踏めるように制作。物語のメッセージにある「今のお前が何を感じどう生きるのかが未来を創るのだ」は、子ども達に今の自分の生き方について考えるきっかけを提供しています。

①自分を愛することを学ぶ②人を愛することを学ぶ③社会を愛することを学ぶ
この3つのテーマから、当法人の理念である、子ども達が「社会の一員として生き生きと自己実現を目指し豊かな人生を歩むため」の授業を実施しています。



滋賀県甲賀中学校1年生に向けた授業

一冊の本が人生をかえることもある。
一回の授業が人生を変えることだってある。
私たちは、子ども達に人生について考える時間を届けています。

